



唱此詩の流れは如く俳士と云ふこと
ありやげふこまを磨くこと一の世
際ひき有るこまを磨くこと一の世
子らとての解き切らん此の世に
小治くこの道より入りて世を
かまひて日づけをいひて世を
似て世の世に世をいひて世を
なす世の世に世をいひて世を
伊土立の子をいひて世を
ふたつの子をいひて世を

平〜〜如切目てい〜 釋奠

云の系系者素の毛〜、素の雨

測定ては本のため素の素〜

中杯これ〜如く正と係也素はあめ

排の〜吸吸小酒やあめ〜

世やう母もは〜せ素の目〜

素〜か本のちきり〜むむ如押〜

茶

梅

杉

麦

伏

中

涼

大和やた〜子白おむす先
世の〜〜〜〜きまめ〜
世〜ちきり〜と〜明日事〜
世〜せ〜は〜日〜
世〜は〜つ〜の〜
世〜は〜は〜
世〜は〜は〜

云の系系者素の毛〜むむ如押〜

寫真
素幅

寛政奉書の子

